

I さん（身体障害・復職②）

①これからの生活を考えよう（生活支援課：機能訓練事業）

くも膜下出血による右片麻痺・失語症となったIさん。退院後、自宅から殆ど出ず、誰とも話をしない毎日が続いていました。休職期限は2年後でしたが、はたして仕事に戻れるのか、戻るために何をしていたらよいのか、全く分からず、不安な日々を過ごしていました。外に出るきっかけとして、リハビリセンター生活支援課の機能訓練事業に参加し、5人の小さなグループで作業をしたりおしゃべりをしたりと、楽しくプログラムに取り組みました。

②復職に向けた課題を整理しよう（就労支援課：職業相談・復職調整）

外に出ることに少し自信がついたので、職業相談を行い、復職に向けて準備を始めることとしました。職場からもリハビリ経過について問い合わせがあったため、リハビリセンターで打ち合わせを行いました。職場の人事スタッフ・就労支援課職員と話し合い、復職に向けた見通しを共有しました。

③安全な通勤方法と適作業の整理をしよう（就労支援課：通勤訓練・通所プログラム）

人事スタッフとの面談で、通勤が課題なことがわかったため、自宅と職場の間の通勤訓練を繰り返し行いました。安全に一人で移動できる時間帯・ルートを就労支援課職員と一緒に確認し、雨の日の移動方法や緊急時の連絡手段についても整理しました。職場と定期的に面談を行い、プログラム結果を報告しました。

週5回就労支援課に通所し、自分に出来る仕事について整理しました。

④復職の最終調整をしよう（就労支援課：復職調整）

復帰が想定される部署でリハビリ出勤を3か月間行いました。急激な負荷を避けるため、最初は週3日、午前中から開始し、徐々に時間を拡大していきました。初めは発症前とのギャップに驚きましたが、同僚の温かい言葉を励みに、リハビリ出勤をやり遂げました。Iさんの前向きな姿勢が職場に評価され、復職が決定しました。